



## 日産化学株式会社

2022年3月期 第3四半期決算説明電話会議

説明者

取締役副社長 CFO 宮崎純一

2022年2月4日

3Q	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は、58億円の増収(+13%)</li> <li>■ 営業利益は、70億円増益(+124%)(会計方針の変更影響+40億円を含む※1)</li> <li>■ 純利益は、48億円増益(+108%)</li> </ul>
1-3Q 累計※2	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は、31億円増収(+2%)</li> <li>■ 営業利益は、103億円増益(+44%)(会計方針の変更影響+31億円を含む※1)</li> <li>■ 純利益は、72億円増益(+39%)</li> <li>■ 営業利益・経常利益・純利益は、1-3Q累計で過去最高益を更新</li> </ul>
3Q	業績予想比 (2021年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は、28億円上ぶれ</li> <li>■ 営業利益は、32億円上ぶれ</li> <li>■ 純利益は、20億円上ぶれ</li> </ul>
株主還元の状態		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中間配当50円(前年比4円増配)</li> <li>■ 自己株式取得 2021年7月 70億円完了(1,262千株)</li> </ul>

※1 会計方針の変更影響の詳細は、p5,p51参照  
 ※2 以後、1-3Qと記載

| 4

**宮崎：**副社長の宮崎でございます。では、早速始めたいと思います。

4 ページをご覧ください。

3Q 決算のサマリーです。まず 3Q 単独です。売上が 58 億円の増収、営業利益は 70 億円の増益、純利益が 48 億円の増益になりました。

営業利益です。このページの一番下にありますとおり、※1 の注で、51 ページ、5 ページをご覧ください。会計方針の変更影響で 40 億円プラスとなっています。従いまして、営業利益の実力としては 30 億円の増益だったということになります。

続いて 1-3Q 累計です。営業利益につきましては 103 億円の増益ということでして、こちらも会計方針影響 31 億円を除きますと、72 億円の実力の増益となります。純利益につきましては 72 億円の増益で、営業利益、経常利益、当期純利益、いずれも 1-3Q 累計では過去最高益。過去の最高は 18 年の 12 月ですが、これを更新したことになります。

それから、3Q の業績予想比でございますけれども、売上で 28 億円、営業利益で 32 億円、純利益で 20 億円の上ぶれでございました。

1-3Q 累計の株主還元は、中間配当は 50 円、前年比で 4 円の増配。それから自己株式取得を、7 月完了で 70 億円行っております。

## 2021年度3Q決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績 <sup>※1</sup>			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	945	437	1,382	918	495	1,413	-27 (-3%)	+58 (+13%)	+31 (+2%)
営業利益 <sup>※2</sup>	180	56	236	213	126	339	+33 (+19%)	+70 (+124%)	+103 (+44%)
営業外損益	2	2	4	10	9	19	+8	+7	+15
経常利益 <sup>※2</sup>	182	58	240	223	135	358	+41	+77	+118
特別損益	11	0	11	0	2	2	-11	+2	-9
純利益 <sup>※2・3</sup>	139	45	184	163	93	256	+24	+48	+72
EBITDA <sup>※4</sup>	228	83	311	260	152	412	+32	+69	+101
EPS(円/株) <sup>※2</sup>	95.96	30.97	126.93	113.94	65.64	179.58	+17.98	+34.67	+52.65
売上高営業利益率 <sup>※2</sup>	19.0%	12.9%	17.1%	23.2%	25.5%	24.0%	+4.2%	+12.6%	+6.9%
為替レート(円/ドル)	107	105	106	110	114	111	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) <sup>※5</sup>	36	44	38	70	80	74	-	-	-

※1 2021年実績は会計方針の変更影響を含む(p51参照)

※2 当時、償却期間5年で仮計算していた殺菌剤ダイセン(マンゼブ)事業の償却費を、会計監査後の確定値15.6年(加重平均)償却に修正。これにより、2020年3Q当時の公表値から営業利益、経常利益を+0.6億円、純利益を+0.4億円修正。セグメント別営業利益では調整額に反映。2020年3Qと4Qの内訳のみ修正、2020年度上期および通期の値には影響なし

※3 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※4 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※5 実績は財務省貿易統計ベース

### 会計方針の変更影響(前年同期比)(p51参照)

(億円)

	2021年度 実績		
	上期	3Q	1-3Q
売上高の増減 <sup>※6</sup>	-109	-17	-126
営業利益の増減 <sup>※7</sup>	-9	+40	+31

※6 代理人取引・フルララネルロイヤリティ収入計上期変更による増減・農業売上値引コスト増減の合計

※7 フルララネルロイヤリティ収入計上期変更による増減・農業売上値引コスト増減の合計

5

続きまして、5 ページをご覧ください。全体の数字であります。

中ほどに、1-3Q 累計の 21 年度実績値がございます。売上で 1,413、営業利益で 339、経常で 358、純利益で 256 億円となりました。

3Q につきましてはその左でして、営業利益でいきますと 126 億円、経常で 135、当期で 93 となりました。

一番右側の前年同期比で見いただきますと、売上で 31、営業利益で 103、純利益で 72 億円の増益という結果でございます。

この間の為替レートは、この表の下から 2 行目にありますとおり、21 年度の上期は 110 円、それから 3Q が 114 円ということで、加重平均で 111 円と、昨年度の 106 円よりも 5 円の円安となっております。

## 2021年度3Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2021年度 予想		2021年度 実績 <sup>※1</sup>		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	467	1,385	495	1,413	+28
営業利益	94	307	126	339	+32
営業外損益	4	14	9	19	+5
経常利益	98	321	135	358	+37
特別損益	0	0	2	2	+2
法人税等・非支配株主利益 <sup>※2</sup>	-25	-85	-44	-104	-19
純利益 <sup>※2・3</sup>	73	236	93	256	+20
EBITDA <sup>※4</sup>	-	-	152	412	-
EPS(円/株)	-	-	65.64	179.58	-
売上高営業利益率	20.1%	22.2%	25.5%	24.0%	-
為替レート(円/ドル)	107	109	114	111	-
原油(JCC)(ドル/bbl) <sup>※5</sup>	75	72	80	74	-

※1 2021年実績は会計方針の変更影響を含む(p5,p51参照)

※2 法人税等・非支配株主利益は、2021年度3Q予想における数値誤りあり。上記予想では、修正後の数値を使用。修正前の予想は、3Q -10億円、1-3Q -70億円。純利益も修正後の数値を使用。修正前の予想は、3Q 88億円、1-3Q累計 251億円。

※3 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※4 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※5 実績は財務省貿易統計ベース

| 6

6 ページをご覧ください。

業績予想比です。売上でプラスの 28、営業利益でプラスの 32、経常でプラス 37、当期でプラス 20 という結果でございました。

## 営業利益の増減分析

	2021年度 実績	2020年度 実績	前年同期比	業績予想	業績予想比
<b>3Q</b>	<b>126</b> 億円	<b>56</b> 億円	<b>+70</b> 億円(+124%)	<b>94</b> 億円	<b>+32</b> 億円
化学品	前年同期比 +6億円	メラミン・テピック・環境化学品の増収		業績予想比 3億円上ぶれ	メラミン・テピックの好調
機能性材料	前年同期比 +13億円	ディスプレイ・半導体の増収		業績予想比 10億円上ぶれ	ディスプレイ・半導体の好調と無機の回復
農業化学品	前年同期比 +44億円	会計方針の変更影響(フルララネルロイヤリティ収入計上、農業売上値引コスト減)による増収、クインテック・ダイセン・グレースシアの増収		業績予想比 11億円上ぶれ	フルララネルロイヤリティの上ぶれ、クインテック・ラウンドアップ・グレースシアの上ぶれ
医薬品	前年同期比 +4億円	リバロ減収も、ファインテックの増収が大きく増益		業績予想比 1億円上ぶれ	ファインテックの上ぶれ
<b>1-3Q</b>	<b>339</b> 億円	<b>236</b> 億円	<b>+103</b> 億円(+44%)		
化学品	前年同期比 +19億円	メラミン・テピック・環境化学品の増収			
機能性材料	前年同期比 +38億円	ディスプレイ・半導体の好調			
農業化学品	前年同期比 +36億円	会計方針の変更影響(フルララネルロイヤリティ収入増、農業売上値引コスト減)による増収、クインテック・ダイセンの増収			
医薬品	前年同期比 +9億円	リバロ減収も、ファインテックの増収が大きく増益			

| 7

続いて、7 ページをご覧ください。

営業利益の増減の分析です。繰り返しになりますが、前年同期比でプラス 70 億円ですが、実力的にはプラス 30 ということになります。

化学品につきましては、前年同期比でプラスの 6 億円。業績予想比でプラスの 3 億円というのが 3Q でして、メラミン・テピックの好調が大きな要因となっております。

機能性材料、前年同期比でプラスの 13、予想比ではプラスの 10、ディスプレイ・半導体の好調が主因となっております。

農業化学品は会計変更の影響が集中しておりまして、前年同期比でプラス 44 億円ですが、会計方針の変更でプラスの 40 億円ございますので、実態はプラスの 4 億円。業績予想比では、実力で上ぶれまして 11 億円の上ぶれです。

医薬品はリバロが減収ですが、ファインテックが好調でして、前年同期比でプラスの 4 億円。業績予想比でプラスの 1 億円であります。

1-3Q 累計について見ますと、前年同期比で 103 億円の営業利益の増ですが、化学品でプラスの 19、機能性でプラスの 38、農薬でプラスの 36、医薬品でプラスの 9 です。

農業化学品で、会計方針の変更でプラス 31 がございますので、それを除きますとプラスの 5 というのが実力の増ということになります。

## 営業外損益・特別損益の内訳



(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
営業外収益	9.5	6.4	15.9	13.6	10.5	24.1	+4.1	+4.1	+8.2
受取利息・配当金	3.5	3.6	7.1	3.2	2.3	5.5	-0.3	-1.3	-1.6
為替差益	0.0	0.0	0.0	1.0	2.1	3.1	+1.0	+2.1	+3.1
持分法投資損益 他	6.0	2.8	8.8	9.4	6.1	15.5	+3.4	+3.3	+6.7
営業外費用	7.6	4.2	11.8	4.2	1.5	5.7	-3.4	-2.7	-6.1
支払利息	0.5	0.1	0.6	0.5	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0
為替差損	2.6	1.9	4.5	0.0	0.0	0.0	-2.6	-1.9	-4.5
固定資産処分損 他	4.5	2.2	6.7	3.7	1.4	5.1	-0.8	-0.8	-1.6
営業外損益	1.9	2.2	4.1	9.4	9.0	18.4	+7.5	+6.8	+14.3
特別利益	10.9	-0.3	10.6	28.2	5.0	33.2	+17.3	+5.3	+22.6
特別損失	0.0	0.0	0.0	27.9	3.0	30.9	+27.9	+3.0	+30.9
特別損益 <sup>※1・2</sup>	10.9	-0.3	10.6	0.3	2.0	2.3	-10.6	+2.3	-8.3

※1 2020年度1-3Q実績:

特別利益+10.6億円(有価証券売却益10.6億円・売却額23.1億円、13銘柄(うち10銘柄保有全株数売却))

※2 2021年度1-3Q実績:

特別利益+33.2億円(有価証券売却益33.2億円・売却額42.5億円、7銘柄(うち1銘柄保有全株数売却))

特別損失-30.9億円(メラミン構造改善費用21.6億円、日本燐酸設備撤去費用6.3億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損3.0億円)

\*日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売。燐酸液の製造停止決定に伴い、出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

8

続いて、8 ページをご覧ください。

営業外と特別損益の動向です。営業外損益、前年同期比 1-3Q 累計でいきますと、一番右側ですが、プラスの 14.3 億円となりました。

特別利益は、3Q では有価証券の売却益で 5 億円。それから、特損で非上場株式の減損で 3 億円がございました。

2021年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは282億円となり、前年同期比45億円の増加

(億円)

	2020年度 実績	2021年度 実績	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
営業活動によるキャッシュ・フロー	346	350	+4
税金等調整前純利益 <sup>※1</sup>	251	360	+109
特別損益(マイナスは益)	-11	-2	+9
減価償却費 <sup>※1,2</sup>	75	73	-2
法人税等の支払	-108	-128	-20
運転資金増減他 <sup>※1</sup>	139	47	-92
投資活動によるキャッシュ・フロー	-109	-68	+41
設備投資	-60	-62	-2
投資有価証券購入・売却	22	40	+18
その他 <sup>※3</sup>	-71	-46	+25
フリー・キャッシュ・フロー	237	282	+45
財務活動によるキャッシュ・フロー	-338	-355	-17
株主還元(配当)	-136	-155	-19
株主還元(自己株式取得)	-70	-70	0
借入金増減	-132	-130	+2
その他	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1	+1
現金及び現金同等物の増減額	-101	-72	+29
現金及び現金同等物の残高	206	252	+46

※1 2020実績:ダイセン償却費再計算影響により、修正(p5参照) ※2 のれん償却費を含む ※3 2020実績:ダイセン事業買収-54、他-17、2021実績:NBRへの長期貸付-33、他-13

9

9 ページ、キャッシュ・フローの状況です。

昨年同様、潤沢なキャッシュ・フローとなっております。

営業キャッシュ・フローは、前年同期に比べてプラス4億円と、こちらは運転資金の増ということで、主として農薬で売上債権、棚卸資産の増加が大きく、その結果として営業キャッシュ・フローの増は小さくなっております。

一方、投資のキャッシュ・フローは昨年に比べて41億円の資金プラスです。こちらはその他にありました昨年のダイセンの買収54億円がなくなったのが、大きな影響となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは17億円の支出の増でして、主として配当の増加によるところであります。

結果として、現預金は12月末で252億円と46億円の増加です。

## 貸借対照表

(億円)

	2020年12月末	2021年3月末	2021年12月末	前期末比		2020年12月末	2021年3月末	2021年12月末	前期末比
流動資産	1,305	1,596	1,510	-86	負債	469	649	553	-96
現預金	206	324	252	-72	買入債務	173	163	196	+33
売上債権	473	739	606	-133	借入金	113	227	98	-129
たな卸資産	548	467	581	+114	その他	183	259	259	0
その他	78	66	71	+5	純資産	1,869	2,006	1,994	-12
固定資産	1,033	1,059	1,037	-22	株主資本 <sup>※2</sup>	1,748	1,869	1,886	+17
有形固定資産	515	518	519	+1	その他有価証券評価差額金	108	114	83	-31
無形固定資産	123	121	119	-2	為替換算調整勘定	-4	1	1	0
投資有価証券	343	359	308	-51	非支配株主持分	17	17	20	+3
その他	52	61	91	+30	退職給付に係る調整累計額	0	5	4	-1
資産合計	2,338	2,655	2,547	-108	負債純資産合計	2,338	2,655	2,547	-108

### 投資有価証券(固定資産)の内訳

	2020年12月末	2021年3月末	2021年12月末	前期末比
上場株式 <sup>※1</sup> (単体ベース保有銘柄数)	238 (35)	244 (31)	191 (30)	-53 (-1)
非上場株式	27	27	25	-2
関係会社株式	78	88	92	+4
合計	343	359	308	-51

自己資本比率	79.2%	74.9%	77.5%
D/Eレシオ <sup>※3</sup>	-5.3%	-5.2%	-8.1%

※1 21/3末 244 + 取得0 - 売却・評価差額53 = 21/12末 191

※2 株主資本増減 +17 = 純利益256 - 配当その他239

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 2020年12月末:ダイセン償却費再計算影響により、修正(p5参照)

| 10

続いて、10 ページがバランスシートです。

資産の合計につきましては、3 月末が 2,655 億円。12 月末が 2,547 ということで 108 億円の減少でございます。

その下に投資有価証券がございます。21 年 3 月末が 244 億円に対しまして、右側に注がありますとおり、売却等を行いました結果、ここは 191 億円で、53 億円減ってございます。

保有銘柄数は、昨年の同期、20 年 12 月末、35 銘柄から 30 銘柄に減っております。

自己資本比率につきましては右側ですが、21 年 12 月末で 77.5%となりました。

## セグメント別 2021年度3Q決算 前年同期比

(億円)

		2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
		上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
化学品	売上高	147	83	230	171	105	276	+24 (+16%)	+22 (+26%)	+46 (+20%)
	営業利益	-1	7	6	12	13	25	+13 (-)	+6 (+81%)	+19 (+329%)
機能性材料	売上高	346	192	538	396	209	605	+50 (+14%)	+17 (+9%)	+67 (+12%)
	営業利益	107	63	170	132	76	208	+25 (+23%)	+13 (+21%)	+38 (+22%)
農業化学品	売上高	257	63	320	250	119	369	-7 (-3%)	+56 (+92%)	+49 (+15%)
	営業利益	78	-13	65	70	31	101	-8 (-10%)	+44 (-)	+36 (+55%)
医薬品	売上高	30	14	44	33	20	53	+3 (+10%)	+6 (+38%)	+9 (+19%)
	営業利益	0	0	0	5	4	9	+5 (-)	+4 (-)	+9 (-)
卸売	売上高	337	178	515	364	222	586	+27	+44	+71
	営業利益	12	7	19	13	8	21	+1	+1	+2
その他	売上高	94	68	162	104	61	165	+10	-7	+3
	営業利益	0	4	4	0	2	2	0	-2	-2
調整額	売上高	-266	-161	-427	-400	-241	-641	-134	-80	-214
	営業利益	-16	-12	-28	-19	-8	-27	-3	+4	+1
合計	売上高	945	437	1,382	918	495	1,413	-27 (-3%)	+58 (+13%)	+31 (+2%)
	営業利益	180	56	236	213	126	339	+33 (+19%)	+70 (+124%)	+103 (+44%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧

12

## セグメント別 2021年度3Q決算 業績予想比

(億円)

		2021年度 予想		2021年度 実績		業績予想比
		3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
化学品	売上高	96	267	105	276	+9
	営業利益	10	22	13	25	+3
機能性材料	売上高	205	601	209	605	+4
	営業利益	66	198	76	208	+10
農業化学品	売上高	112	362	119	369	+7
	営業利益	20	90	31	101	+11
医薬品	売上高	19	52	20	53	+1
	営業利益	3	8	4	9	+1
卸売	売上高	200	564	222	586	+22
	営業利益	6	19	8	21	+2
その他	売上高	53	157	61	165	+8
	営業利益	1	1	2	2	+1
調整額	売上高	-218	-618	-241	-641	-23
	営業利益	-12	-31	-8	-27	+4
合計	売上高	467	1,385	495	1,413	+28
	営業利益	94	307	126	339	+32

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧

13

続いて、セグメントのご説明に入らせていただきます。

12 ページが、前年同期比のまとめの表でございますので、後ほどご参照ください。13 ページが、業績予想比のまとめの表となっております。

## 化学品セグメント 主要製品売上高成長率



- ファインケミカルは、1-3Qで19%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 基礎化学品は、1-3Qで20%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品		前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成 予想値は非開示)
		3Q	1-3Q	
テピック	【特徴】耐熱性、耐候性、透明性に優れたエポキシ化合物。当社は世界最大メーカー 【用途】一般向け：粉体塗料硬化剤 電材向け：ソルダーレジストインキ、LED封止材	+20%	+23%	上ぶれ
環境化学品	【特徴】主原材料は塩素化イソシアヌル酸 【用途】プール・浄化槽向け殺菌・消毒剤	+30%	+16%	上ぶれ
ファインケミカル合計		+27%	+19%	上ぶれ

上記2製品グループの2021年1-3Q実績ファインケミカル売上高に占める割合：74%

主要製品		前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成 予想値は非開示)
		3Q	1-3Q	
メラミン	【特徴】高級な風合いや堅牢な性質をもつ樹脂原料 【用途】合板などの接着剤、化粧板	+99%	+65%	上ぶれ
尿素・アドブルー	【特徴】排出ガスに噴射することで、窒素酸化物(NO <sub>x</sub> )を無害な窒素と水へ分解 環境負荷低減に貢献 【用途】ディーゼル車排出ガス浄化用高品位尿素水、接着剤	+23%	+18%	上ぶれ
高純度硫酸	【特徴】当社は国内最大メーカー 【用途】半導体用洗浄剤	+8%	+9%	上ぶれ
硝酸製品	【特徴】アンモニアの酸化によって得られる強酸性の薬品であり幅広い分野で採用 【用途】金属溶解・表面処理、消泡剤等	+12%	+17%	上ぶれ
基礎化学品合計		+25%	+20%	上ぶれ

上記4製品グループの2021年1-3Q実績基礎化学品売上高に占める割合：56%

15

それでは、まず化学品セグメントから入ります。15 ページをご覧ください。

主要製品の売上のYoYの動きということになります。ファインケミカルですが、テピック、環境化学品、こちらの数字のとおり、3Q累計でいきますと19%の増で、これは業績予想、3Qの業績予想値は各製品別を出しておりませんが、これに比べて上ぶれしております。

基礎化学品を見ていただきますと、こちらでも1-3Q累計で、合計でプラスの20%でして、特にメラミン、プラスの65%となりました。3Q単独でもプラスの99%という数字でして、主要製品全て業績予想を上回っております。

【3Q】売上高+22億円、営業利益+6億円 【1-3Q】売上高+46億円、営業利益+19億円

(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	147	83	230	171	105	276	+24	+22	+46
ファインケミカル	54	28	82	62	37	99	+8	+9	+17
基礎化学品	93	55	148	109	68	177	+16	+13	+29
営業利益	-1	7	6	12	13	25	+13	+6	+19

	【3Q】増収・増益	【1-3Q】増収・増益
ファインケミカル	テピック一般	【3Q】【1-3Q】とも価格上昇で増収
	テピック電材	【3Q】半導体不足の影響で減収 【1-3Q】増収
	環境化学品	【3Q】【1-3Q】ともシアヌル酸増強で増収
		【3Q】原燃料高、運送費高騰(減益要因) 【1-3Q】原燃料高、運送費高騰(減益要因)、固定費増加
基礎化学品	メラミン	【3Q】【1-3Q】とも増収
	尿素・アドブルー	【3Q】【1-3Q】とも増収
	高純度硫酸	【3Q】【1-3Q】とも増収
	硝酸製品	【3Q】【1-3Q】とも増収
	【3Q】原燃料高(減益要因) 【1-3Q】原燃料高、運送費高騰(減益要因)	

| 16

16 ページ、それを受けての前年同期比の損益動向です。

まずファインケミカル、左の下のほうですが3Q、それから1-3Q累計、それぞれ増収・増益となっております。

テピック一般、こちらは特に価格の上昇が目立っております。電材につきましては、半導体不足の影響で、3Qについては減収となっております。環境化学品につきましては、シアヌル酸の増強で増収です。

一番下にありますとおり、コスト要因、原燃料高、運送費高がございましたが、これを跳ね返しての増益でございます。

基礎化学品、右側のほうですが、今ご説明申し上げましたとおり、主要製品全て増収でして、原燃料高、運送費増がございましたが、増収・増益を達成しております。

結果として、1-3Q累計で、セグメントで19億円の営業利益の増となりました。

【3Q】売上高+9億円、営業利益+3億円

(億円)

	2021年度 予想		2021年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	
売上高	96	267	105	276	+9
ファインケミカル	34	96	37	99	+3
基礎化学品	62	171	68	177	+6
営業利益	10	22	13	25	+3

【3Q】売上高上ぶれ・営業利益下ぶれ

ファインケミカル	テピック一般	売上高上ぶれ
	テピック電材	半導体不足の影響で売上高下ぶれ
	環境化学品	売上高上ぶれ
	原燃料高(減益要因)	

【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

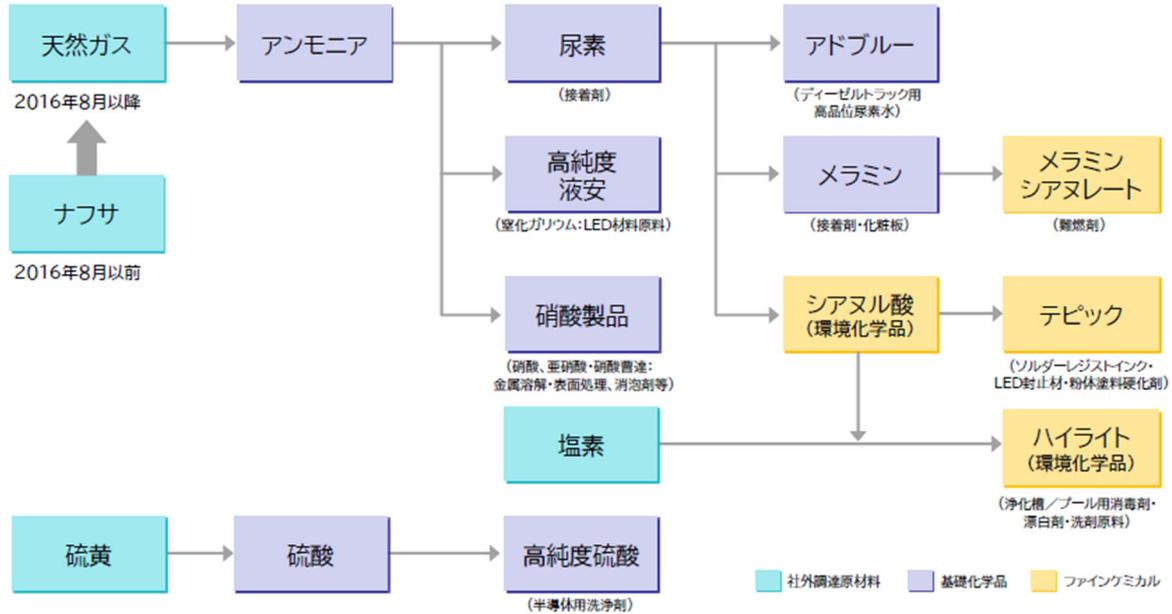
基礎化学品	メラミン	売上高上ぶれ
	尿素・アドブルー	売上高上ぶれ
	高純度硫酸	売上高上ぶれ
	硝酸製品	売上高上ぶれ

続いて、17 ページにまいります。

3Q の業績予想比であります。ファインケミカルは売上は上ぶれましたが、原燃料高があったということもありまして、少し目標よりも小さな数字になりました。

一方、基礎化学品は、主要製品の売上が上ぶれたことがありまして、売上、利益ともに上ぶれております。セグメント全体では、3Q は 3 億円の利益の上ぶれとなりました。

主要製品は、アンモニア系と硫酸系。2020年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%。規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力する



2021年8月発表 2021年度第1四半期決算説明資料から変更なし。メラミン生産停止は財務面・非財務面の双方においてメリットがあると判断。今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中させていく。

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2020年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	674(66%)	7(12%)	アンモニア、尿素・アドブルー、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	345(34%)	51(88%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,019(100%)	58(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

4. 対応策の業績への影響試算

- ① メラミン関連諸費用は投資有価証券売却益で対応し影響は軽微(2021年2Q計上済み、p8参照)

② 2023年度 化学品セグメント概算損益イメージ (億円)

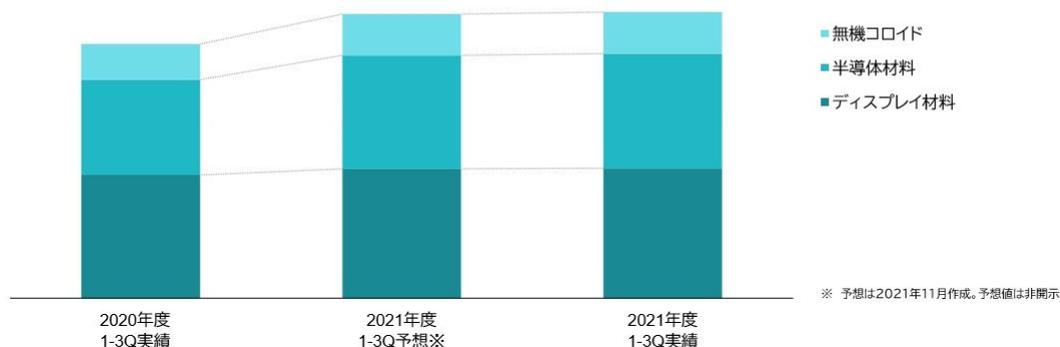
	2021年度 予想(21/5発表)	2023年度と2021年度予想の差異 メラミン停止影響と対応策効果	2023年度 概算予想
売上高	346	+16	362
営業利益	24	+10	34

5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン  
→2018年度実績の約7%に相当(p48参照)

続きまして 19 ページ、これは前回の説明会でお話しましたメラミンの停止影響でして、これは書きぶりに変更はございません。

機能性材料セグメント サブセグメント別売上高 Nissan Chemical CORPORATION



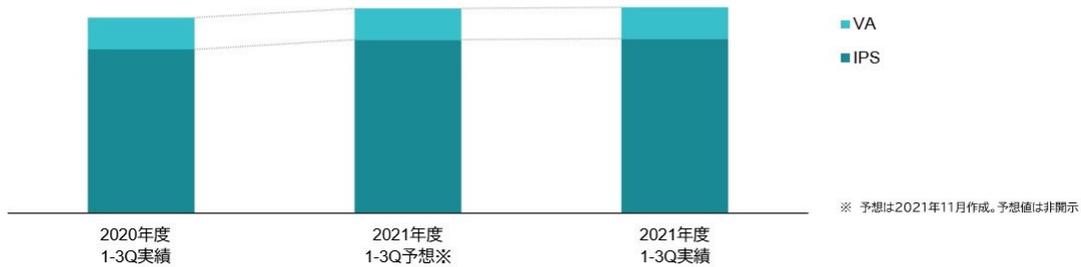
主要製品

ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエパー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		その他新材料	EUV材料、三次元実装材、CMOSイメージセンサー材料等	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

続きまして、機能性材料に移ります。

21 ページ、棒グラフでありますとおり、全体としては昨年の 1-3Q よりも増収。それから 1-3Q の予想値よりも増収という形になっております。

IPSモードでの販売が増加。IPSモードの中では特に光IPS（IPS液晶用光配向材）が伸長



- 主要用途
- VA (Vertical Alignment) テレビ
  - IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター

#### モード別売上高成長率

	前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成・予想値は非開示)
	3Q	1-3Q	
VA	+0 ~ +9%	-9 ~ -0%	上ぶれ
IPS	+0 ~ +9%	+0 ~ +9%	上ぶれ
サンエバー合計(TN※含む)	+2%	+5%	上ぶれ

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

| 22

まず、サンエバーです。22 ページをご覧ください。

3Q 単独ではプラスの2%、1-3Q 累計ではプラスの5%となっておりまして、業績予想に対しても上ぶれております。

- ディスプレイ材料は、1-3Qで6%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 半導体材料は、1-3Qで20%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1-3Qで17%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品	前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成・ 予想値は非開示)	主要製品	前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成・ 予想値は非開示)	
	3Q	1-3Q			3Q	1-3Q		
サンエバー	+2%	+5%	上ぶれ	スノーテックス	+10%	+16%	下ぶれ	
ディスプレイ材料合計	+2%	+6%	上ぶれ	オルガノゾル・ モノマーゾル	+7%	+19%	上ぶれ	
ARC®	KrF (ARC®)	+25%	+23%	上ぶれ	オイル&ガス材料	-71%	-16%	下ぶれ
	ArF (ARC®)	+20%	+21%	上ぶれ	無機コロイド合計	+6%	+17%	上ぶれ
ARC® 小計	+22%	+22%	上ぶれ					
その他半導体材料合計※	+14%	+16%	上ぶれ					
半導体材料合計	+20%	+20%	上ぶれ					

※ 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

続きまして、23 ページのところで、各サブセグメントの数字を見ていただきます。

ディスプレイ、先ほど申しあげましたとおり、サンエバーを含めて1-3Q累計でプラスの6%で、業績予想比に対しても上ぶれております。

半導体は、ARCそれからその他半導体材料ともに前年同期比プラス。そして予想比に対しても上ぶれという形です。

無機コロイドにつきましても、オイル&ガスを除きまして順調に推移をしております。

結果として、無機コロイドでは、1-3Q累計でプラスの17%。戻りますが、半導体ではプラスの20%という数字となっております。

【3Q】売上高+17億円、営業利益+13億円、固定費減少合計1億円(共通費用増加1億円含む)  
【1-3Q】売上高+67億円、営業利益+38億円、固定費増加合計7億円(共通費用増加1億円含む)

(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	346	192	538	396	209	605	+50	+17	+67
営業利益	107	63	170	132	76	208	+25	+13	+38

ディスプレイ	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益	
	光IPS	【3Q】【1-3Q】ともに増収(非スマホ好調)
ラビングIPS	【3Q】【1-3Q】ともに減収	
VA	【3Q】増収 【1-3Q】減収	
	【3Q】固定費減少2億円、【1-3Q】固定費減少1億円	

半導体	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益	
	ARC®	【3Q】【1-3Q】ともに増収
その他	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (多層材料・その他新材料※増収)	
	【3Q】市場全般好調 【1-3Q】市場全般好調、固定費増加4億円	
	※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材の合計	

無機コロイド	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益	
	スノーテックス	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (一般用途・研磨材ともに増収)
オルガノ・モノマーゾル	【3Q】【1-3Q】ともに増収	
オイル&ガス材料	【3Q】【1-3Q】ともに減収	
	【1-3Q】固定費増加3億円	

| 24

続いて、機能性の収益動向です。24 ページをご覧ください。24 ページは、前年同期比です。

まずディスプレイです。光 IPS が非スマホ分野で、特に中小型分野で好調ということで、3Q 単独も 1-3Q 累計も増収です。

ラビングにつきましては、光へのシフトがさらに進展しておりますので、マイナスになりました。

VA につきましては、3Q 単独では増収ですが、1-3Q 累計では、半島のお客様のラインの縮小ということが影響しまして、これは微減という形となっております。収益的にはディスプレイは、3Q 単独、1-3Q 累計ともに増収増益です。

続いて、半導体です。ARC それからその他の材料、いずれも大変な好調でありまして、3Q 単独、それから 1-3Q 累計でも増収・増益という結果でございます。

無機コロイドも増収でありまして、オイル&ガスが若干のマイナスでありますけれども、全体としますと増収・増益を確保しております。

【3Q】売上高+4億円、営業利益+10億円、固定費下ぶれ合計4億円(増益要因)

	2021年度 予想		2021年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	205	601	209	605	+4
営業利益	66	198	76	208	+10

(億円)

ディスプレイ	【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ	
	光IPS	売上高上ぶれ(非スマホ好調)
	ラビングIPS	売上高下ぶれ
	VA	売上高上ぶれ
	固定費下ぶれ1億円(増益要因)	

半導体	【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ	
	ARC®	売上高上ぶれ
	その他	売上高上ぶれ (多層材料予想通り・その他新材料※上ぶれ)
	市場全般好調、固定費下ぶれ2億円(増益要因)	
	※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材の合計	

無機コロイド	【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ	
	スノーテックス	売上高下ぶれ(一般用途下ぶれ、研磨材上ぶれ)
	オルガノ・モノマーゾル	売上高上ぶれ
	オイル&ガス材料	売上高下ぶれ
	固定費下ぶれ1億円(増益要因)	

| 25

25 ページ、機能性の業績予想比です。

全体としては10億円の営業利益の上ぶれでございました。ディスプレイ、光IPSもノート等の好調を反映して上ぶれております。

ラビングIPSは下ぶれでして、ラビングの中では大型あるいはスマホは下ぶれましたが、中小型が上ぶれた状況です。

VAについては、売上高は上ぶれております。

続いて半導体です。売上、利益ともに上ぶれております。ARC、その他材料も上ぶれております。

無機コロイドです。スノーテックスにつきましては、若干在庫調整等で一般用途が下ぶれましたが、研磨材が好調でありました。

オルガノ・モノマーゾルは上ぶれ、オイル&ガスは下ぶれということで、その他の材料も上ぶれておりまして、全体としては売上、利益ともに上ぶれております。

1-3Qで11%増収、業績予想比でも上ぶれ

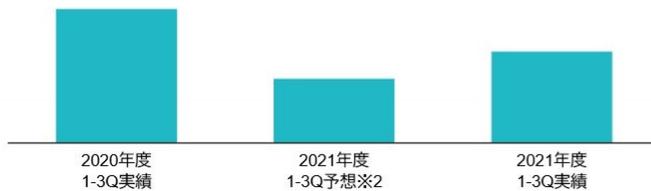
主要製品名 (2020年度 売上高順)	種類	前年同期比 (1-3Q)	業績予想比 (2021年11月作成、 予想値は非開示)
ラウンドアップ※1	除草剤	+9%	上ぶれ
フルララネル	動物薬	+15%	上ぶれ
アルテア	除草剤	-17%	上ぶれ
タルガ	除草剤	+23%	下ぶれ
グレーシア	殺虫剤	-32%	上ぶれ
パーミット	除草剤	+3%	上ぶれ
ライメイ	殺菌剤	+4%	下ぶれ
クインテック	殺菌剤	+300%以上	上ぶれ
ダイセン	殺菌剤	-	下ぶれ
セグメント合計	-	+11%	上ぶれ

参考

- 国内農業販売 第1位  
(2018年10月~2019年9月)
- [ラウンドアップの現状説明会資料](#)  
(2020年1月22日公表)

※1 ラウンドアップALは、2021年度1-3Qのラウンドアップ売上高全体の30%を占める

グレーシア売上高



参考

2021年度  
第2四半期決算説明資料  
(2021年11月11日公表)  
p30 グレーシア売上高成長予想

※2 2021年11月作成。予想値は非開示

続いて農業化学品です。27 ページをご覧ください。

まず主要製品の売上の動向です。セグメント全体では、1-3Q 累計でプラスの 11%で、大幅な増収となっております。これは、業績予想を上回る仕上がりです。

個別に見ましても、それぞれ個別要因がございますけども、下ぶれとなったのがタルガ、4 番目、それから 7 番目のライメイ、それから一番下のダイセンですが、そのほかは上ぶれで着地をしております。

特にグレーシアにつきましては、その下の棒グラフにありますとおり、業績予想をかなり上回る形となりました。もともとの予想は、1-3Q 累計では前年比マイナス 52%でしたが、着地はマイナス 32%ですので、ここはかなり回復してきている状況でございます。

【3Q】売上高+56億円、営業利益+44億円、固定費増加3億円

(会計方針の変更による売上高増加+40億円、営業利益増加+40億円)

【1-3Q】売上高+49億円、営業利益+36億円、固定費増加9億円(うちダイセン償却費増加2億円)

(会計方針の変更による売上高増加+31億円、営業利益増加+31億円)

(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	257	63	320	250	119	369	-7	+56	+49
営業利益	78	-13	65	70	31	101	-8	+44	+36

主要製品	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
ラウンドアップ(除草剤)									
フルララネル(動物薬)									
アルテア(除草剤)									
タルガ(除草剤)									
グレーシア(殺虫剤)									
パーミット(除草剤)									
ライメイ(殺菌剤)									
クインテック(殺菌剤)									
ダイセン(殺菌剤)									

※ 2021年度実績は会計方針の変更影響を含む(フルララネルロイヤリティ収入計上時期変更による増減・農業売上値引コスト増減)(p51参照)

各製品の状況も含めて、28 ページの収益動向でご説明をします。

まずラウンドアップです。3Q 単独、1-3Q 累計共通ですが、12 月に値上げをするという発表をいたしましたので、その駆け込み需要がそれぞれ 3Q にはございました。それが大きな要因でございます。

フルララネルにつきましては 3Q 単独、これについては会計方針の変更で、ロイヤリティを初めて計上したというのが非常に大きな推移になっております。1-3Q 累計について見ますと、原薬は減収でございますが、先ほどのとおりロイヤリティの 3Q 計上というのが大きな要因となってプラスとなっております。

アルテアにつきましては、3Q は小幅増収ですが、1-3Q 累計につきましては 20 年度が非常に大きな数字という異常値でありまして、21 年度はむしろ正常化ということで、これを反映して減収となっております。

それから、タルガです。これはインド向けの混合剤が上市されたということを大きな契機として、3Q、1-3Q 累計ともに増収でございます。

グレーシア、3Q のところを単独で見ますと、流通在庫が減ってきているということと、防除ニーズが思ったよりも大きかったということもありまして増収。輸出についても、インド向けに上市されたことの増収が効いています。ただ、1-3Q 累計でいきますと、上期の減収が響いておりますので、減収となっております。

パーミットにつきましては、3Q は若干の減収ですが、1-3Q 累計は増収となっております。

ライメイにつきましては、3Q は若干の減収でして、1-3Q 累計については増収という形でありませ

ず。  
クインテックは 3Q、これは次の 4Q からの前倒しが非常に多く入ってしまっていてプラスとなっております。1-3Q 累計も、20 年度の 4Q から後ろ倒しと、21 年度 4Q からの前倒しが両方プラスに働か

まして、大幅な増収です。  
ダイセンにつきましては、昨年度は 4Q からの販売開始ですので、売上イコール増収という形となりました。

## 農業化学品セグメント 2021年度3Q決算 業績予想比



【3Q】売上高+7億円、営業利益+11億円、  
固定費下ぶれ1億円・在庫変動影響+2億円(ともに増益要因)

(億円)

	2021年度 予想		2021年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	112	362	119	369	+7
営業利益	20	90	31	101	+11

主要製品	説明
ラウンドアップ(除草剤)	売上高上ぶれ(ML:12月値上げ発表に伴う駆け込み需要)
フルララネル(動物薬)	売上高上ぶれ(原薬予想通り、ロイヤリティ上ぶれ)
アルテア(除草剤)	売上高上ぶれ
タルガ(除草剤)	売上高下ぶれ(4Qへ後ろ倒し)
グレーシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(国内:流通在庫減少、防除ニーズ高により上ぶれ、輸出:新規上市により上ぶれ)
パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ
ライメイ(殺菌剤)	売上高下ぶれ(生産・配船遅延)
クインテック(殺菌剤)	売上高上ぶれ(4Qからの前倒し)
ダイセン(殺菌剤)	売上高下ぶれ

※ 2021年度実績・予想は会計方針の変更影響を含む(フルララネルロイヤリティ収入計上時期変更による増減・農業売上値引コスト増減)(p51参照)

| 29

予想との比較であります、29 ページをご覧ください。

予想との比較でいきますと、営業利益についてはプラスの 11 億円となります。

製品で見ますと、ラウンドアップにつきましては、先ほどの駆け込み需要の影響が大きく出ております。

一方、フルララネルにつきましては、原薬はほぼ予想どおりの出荷水準でしたが、ロイヤリティの上ぶれが利益の上ぶれになっております。小幅な上ぶれです。

タルガについては下ぶれていまして、これは4Qへの後ろ倒し影響。

グレースシア、先ほど申し上げましたとおり、防除ニーズが思ったよりもあったということと、新規の上市があってプラスとなっております。

パーミットも小幅な上昇です。

ライメイについては下ぶれておりますが、これは海外での配船の遅れ、そこからマイナスとなっております。クインテックは逆に前倒しであります。

ダイセンの下ぶれは、小さな金額となっております。

## 農業化学品セグメント 動物用医薬品原薬 フルララネル



当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクトシリーズ・エグゾルトは現在100か国以上で販売中



※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 クリイロコイタマダニは8週間

| 30

30 ページ、フルララネルについての説明です。

こちらは特に2Qからの変更点はございません。

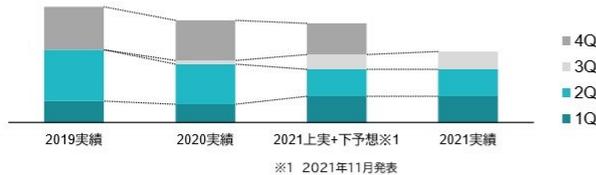
■ 当社のフルララネル売上高の構成

MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2019～2021年度 四半期別売上高推移

(RR収入含む)

ロイヤリティ収入は2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にもとない、2021年度からは各四半期に計上されている



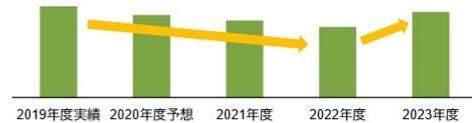
■ 会計方針の変更にもとないRR売上高計上基準の変更(p51参照)

- (2020年度以前) MSD売上高1-6月分:8月計上  
同7-12月分:2月計上
- (2021年度以降) MSD売上高1-3月分:5月計上  
同4-6月分:8月計上  
同7-9月分:11月計上  
同10-12月分:2月計上

■ 2019～2023年売上高推移イメージ

(2020年5月発表 2019年度決算説明資料から変更なし)

ブラベクト売上高は順調に成長。一方、フルララネルは在庫調整が継続すると見られ、売上高(ロイヤリティ収入含む)は2022年度まで減少、2023年度に回復の見込み



■ フルララネルの在庫調整は進んでいるが、現時点では上記シナリオの修正はない

■ ブラベクトの拡大に向けたMSD社の開発状況

ペット向けの新たな内外外部寄生虫薬等、家畜向け経皮投与剤を開発中

31 ページ、フルララネルの売上高の推移です。

こちらのほうも、このページ自体の分析は変わっておりません。従いまして、右のとおり 2022 年度を底として、ブラベクトの売上高の調整が続くという見方は変わっておりません。ただ、在庫調整については進んでいるという認識でおります。

2021年5月発表 2020年度決算説明資料から変更なし。剤の買収・導入による製品ポートフォリオの拡充を進める

クインテック(キノキシフェン)

- クインテックはキノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2019年11月 米国コルテバ社より事業を買収
- 2019年12月 販売開始
- 果樹や野菜用の殺菌剤として流通。主な市場は米国
- 果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

ダイセン(マンゼブ)

- ダイセンはマンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2020年12月 米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- 2021年1月 国内販売開始
- 果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用の保護殺菌剤として流通。耐雨性に優れる
- 監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

ダイセン収益予想

(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26 累計	36	53

32

32 ページは、これも従来同様でありまして、ダイセンとクインテックの買収の概要でございます。

2020年5月発表 2019年度決算説明資料から変更なし。グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指し、新たな原体生産拠点を設立

**Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要**

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農薬(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体を製造し、当社へ販売
従業員数	150-200名(2022年想定)
工場稼働予定	2022年度2Q
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

**Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要**

設立	1989年(インド大手農薬製造販売会社)
上場	インド国立証券(NSE)、ボンベイ証券(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族74.8%
損益状況	2020年度売上高10,920百万ルピー、税引後利益1,639百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Insecticides Ltd (BIL)がタルガ、バルサー、パーミットをインド国内で販売

**資金計画**

(億円)			
設備投資	43	資本金(15億ルピー)	23
運転資金他	24	当社貸付	33
		現地銀行借入	11
所要資金合計	67	資金調達合計	67

**当社連結営業利益への貢献予想(概算)**

(億円)					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
営業利益	-3	5	12	20	32

**当社メリット**

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

33 ページ、インドの合弁会社の詳細でございますが、こちらのほうも特に変わってはいません。

【3Q】売上高+5.2億円、営業利益+4.8億円 【1-3Q】売上高+8.4億円、営業利益+9.0億円

(億円)

	2020年度 実績			2021年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	30.2	14.0	44.2	33.4	19.2	52.6	+3.2	+5.2	+8.4
自社創薬	15.3	5.8	21.1	14.1	4.8	18.9	-1.2	-1.0	-2.2
ファインテック	14.9	8.2	23.1	19.3	14.4	33.7	+4.4	+6.2	+10.6
営業利益	0.3	-0.4	-0.1	4.5	4.4	8.9	+4.2	+4.8	+9.0
自社創薬	-3.6	-3.6	-7.2	-4.4	-3.4	-7.8	-0.8	+0.2	-0.6
ファインテック	3.9	3.2	7.1	8.9	7.8	16.7	+5.0	+4.6	+9.6

※ p12,p13,p40,p41,p56,p57では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

自社創薬	<b>【3Q】減収・増益 【1-3Q】減収・減益</b>
	リバロ 【3Q】減収(国内・輸出とも減収) 【1-3Q】減収(国内増収、輸出減収) 【3Q】在庫変動影響1億円(増益要因)
ファインテック	<b>【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益</b>
	【3Q】【1-3Q】ともにジェネリック原薬好調、出荷時期のずれ

主要製品売上高成長率

	前年同期比		業績予想比 (2021年11月作成 予想値は非開示)
	3Q	1-3Q	
リバロ	-25%	-12%	下ぶれ
ファインテック	+77%	+46%	上ぶれ
セグメント合計	+38%	+19%	上ぶれ

| 35

続きまして、医薬品セグメントにまいります。35 ページをご覧ください。

前年同期比は、自社創薬、ファインテック、ご覧のとおり、自社創薬でいきますと、前年同期比ではプラス 0.2、1-3Q 累計ではマイナス 0.6、ファインテックは 3Q 単独でプラス 4.6、年間でいきますとプラス 9.6 という数字となっております。

リバロは一応創薬でありますけれども、3Q 単独では減収・増益ということで、在庫変動影響が減収でありましたけれどもプラスに効いていまして、若干の増益となっております。

1-3Q 合計につきましては、国内は増収、輸出は減収というところで、減収・減益の結果でございます。

一方、ファインテックですが、3Q あるいは 1-3Q 合計でジェネリック原薬の好調な出荷ということと、若干の出荷のずれということもありまして、増益となっております。

【3Q】売上高+0.6億円、営業利益+1.3億円

(億円)

	2021年度 予想		2021年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	18.6	52.0	19.2	52.6	+0.6
自社創薬	6.1	20.2	4.8	18.9	-1.3
ファインテック	12.5	31.8	14.4	33.7	+1.9
営業利益	3.1	7.6	4.4	8.9	+1.3
自社創薬	-3.4	-7.8	-3.4	-7.8	0.0
ファインテック	6.5	15.4	7.8	16.7	+1.3

※ p12,p13,p40,p41,p56,p57では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

自社創薬	<b>【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り</b> リバロ 売上高下ぶれ(国内下ぶれ、輸出上ぶれ) 固定費下ぶれ1億円(増益要因)	ファインテック	<b>【3Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ</b> ジェネリック原薬上ぶれ
------	--	---------	--

こちらのほうの業績予想比ですが、36 ページをご覧ください。

自社創薬につきましては、3Q はちょうど営業利益は予想どおり、それからファインテックはプラス 1.3 億円ということで、こちらはジェネリック原薬の好調を反映してございます。

### ■ 通期業績予想を上方修正(2021年度通期営業利益500億円)

1-3Q累計実績に、2021年11月発表値をベースとした4Q予想値を合算して、通期業績予想を策定

通期	前年同期比	
		■ 売上高は、8億円減収(-0%)
		■ 営業利益は、75億円増益(+18%)
		■ 純利益は、38億円増益(+11%)
		■ <b>営業利益・経常利益は8年連続、純利益は9年連続、過去最高益を更新</b>
		■ <b>ROE予想は18.6%</b>
通期	前回業績予想比	
		■ 売上高は、28億円上ぶれ
		■ 営業利益は、26億円上ぶれ
		■ 純利益は、9億円上ぶれ

### ■ 株主還元予想

期末配当予想を68円に増額修正し、自己株式取得50億円を発表(総還元性向77.1%)

配当	通期118円 中間50円、 <b>期末68円</b> 、配当性向45.1% 【前期比】中間4円増配、期末10円増配 【2021/11業績予想比】期末4円増配
自己株式取得	通期120億円 ● 70億円、1,262千株取得済(2021年5~7月) ● <b>50億円、1,000千株取得予定(2022年2月~4月)</b> 【前期比】20億円増額 【2021/11業績予想比】50億円増額
自己株式消却	2百万株消却済(2021年5月、8月)
総還元性向	配当118円と自己株式取得120億円に基づけば77.1%(2020年度実績74.6%)

| 38

続いて、業績予想でございます。38 ページをご覧ください。

通期の業績予想につきまして、営業利益で申し上げますと500億円ということで、前回の業績予想対して26億円、営業利益ベースでは増益修正をしております。

考え方でございますが、1-3Q累計の今ご説明しました実績値に、2Q決算の発表時に使いました4Qの予想値をベースとした数字を合算しております、それで通期業績予想を策定しております。

もともと当社は、3Qのところでは全社的な予算の数字の見直しを行うプロセスはございません。従って、それぞれのセグメントにつきまして、4Qの状況について大まかに見ましたところ、多少のそれぞれ上ぶれ、下ぶれはありそうでございますけれども、全体としては予想を変えるほどの有意な差はないという結論となりまして変えていないわけです。

ただ唯一、4Qの予想のところ、連結調整の計算のところ、誤りが見つかりまして、これについて従来の予想よりもマイナス6億円という数値を入れてございます。

それから、もう一点が4Qの予想で、11月との違いは特別利益のところでございまして、11月の予想値では4Qに有価証券売却益10億円を入れておりましたが、これについては今回はなしということで織り込んでおります。

有価証券の売却につきましては、二つの目的、一つはコーポレートガバナンス対応ということと、特別損失のカバーということとなりますけれども、十分大きな金額での売却を既に行ったということで、ガバナンス対応としても十分であろうということと、特別損失のカバーは終わったということです。

加えまして保有先との売却に関する交渉も進展状況を見ながら、こちら一方的に売るわけにはいきませんので、4Qはなしということといたしました。

結果として、通期前年同期比ですけれども、営業利益は75億円の増益、プラスの18%。純利益は38億円の増益ということで、プラスの11%です。営業利益、経常利益につきましては8年の連続、純利益は9年の連続で過去の最高益を更新することとなります。

ROEにつきましては、18.6%を今見込んでおります。昨年の実績は17.5%、前回予想値は18.1%でありました。

この数字は、前回の業績予想に対しまして、営業利益で26億円の増益、純利益は特別利益10億円がなくなりましたので、9億円の増えとなりました。

株主還元でございますが、期末配当予想を68円に10円増額をしております。従って、通期では118円ということで、昨年よりも14円の増配となります。

さらに自己株式50億円を行うということで、今日発表しております。合わせますと、総還元性向は77.1%となる見込みであります。

## 2021年度業績予想

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 業績予想 (2021年11月発表)					2021年度 業績予想 (2022年2月発表)				
	上期	3Q	4Q	下期	計	上期 実績	3Q	4Q	下期	計	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	計
売上高	945	437	709	1,146	2,091	918	467	670	1,137	2,055	918	495	670	1,165	2,083
営業利益 <sup>※1</sup>	180	56	189	245	425	213	94	167	261	474	213	126	161	287	500
営業外損益	2	2	10	12	14	10	4	0	4	14	10	9	-1	8	18
経常利益 <sup>※1</sup>	182	58	199	257	439	223	98	167	265	488	223	135	160	295	518
特別損益	11	0	5	5	16	0	0	10	10	10	0	2	0	2	2
法人税等・非支配株主利益 <sup>※2</sup>	-54	-13	-53	-66	-120	-60	-25	-49	-74	-134	-60	-44	-43	-87	-147
純利益 <sup>※1・2・3</sup>	139	45	151	196	335	163	73	128	201	364	163	93	117	210	373
EBITDA <sup>※4</sup>	228	83	219	302	530	260	-	-	319	579	260	152	193	345	605
EPS(円/株) <sup>※1</sup>	95.96	30.97	104.80	135.77	231.73	113.94	-	-	141.16	255.10	113.94	65.64	82.02	147.66	261.60
配当(円/株)	46	-	-	58	104	50	-	-	64	114	50	-	-	68	118
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9	-	-	-	-	44.7	-	-	-	-	45.1
配当総額	66	-	-	84	150	71	-	-	91	162	71	-	-	97	168
売上高営業利益率 <sup>※1</sup>	19.0%	12.9%	26.7%	21.4%	20.3%	23.2%	20.1%	24.9%	22.9%	23.1%	23.2%	25.5%	24.0%	24.6%	24.0%
ROE	-	-	-	-	17.5%	-	-	-	-	18.1%	-	-	-	-	18.6%
為替レート(円/ドル)	107	105	106	105	106	110	107	107	107	108	110	114	107	110	110
原油(JCC)(ドル/bbl) <sup>※5</sup>	36	44	56	50	43	70	75	75	75	73	70	80	75	78	74

※1 2020年3Q・4Q:ダイセン償却費修正(p5参照)

※2 法人税等・非支配株主利益は、2021年11月発表の3Q・4Q予想における数値誤りあり。上記2021年11月発表予想では、修正後の数値を使用。純利益も同様に修正(p6参照)

※3 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※4 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※5 実績は財務省貿易統計ベース

39

続いて、39 ページにその数字を展開してございますのでご覧ください。

4Q の利益が、11 月発表は営業利益 167 ですが、4Q は、先ほどの連結調整の計算の誤りを直しまして 161 としております。

それから、特別損益のところでは 11 月発表は 10 億円入っていますが、今回はこれがゼロとなっております。

# セグメント別 2021年度通期 前年同期比



(億円)

		2020年度 実績					2021年度 業績予想 (2022年2月発表)					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	計	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	計	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	計
化学品	売上高	147	83	89	172	319	171	105	97	202	373	+24 (+16%)	+22 (+26%)	+8 (+10%)	+30 (+17%)	+54 (+17%)
	営業利益	-1	7	9	16	15	12	13	7	20	32	+13 (-)	+6 (+81%)	-2 (-22%)	+4 (+23%)	+17 (+116%)
機能性材料	売上高	346	192	178	370	716	396	209	208	417	813	+50 (+14%)	+17 (+9%)	+30 (+16%)	+47 (+13%)	+97 (+13%)
	営業利益	107	63	54	117	224	132	76	65	141	273	+25 (+23%)	+13 (+21%)	+11 (+20%)	+24 (+21%)	+49 (+22%)
農業化学品	売上高	257	63	318	381	638	250	119	296	415	665	-7 (-3%)	+56 (+92%)	-22 (-7%)	+34 (+9%)	+27 (+4%)
	営業利益	78	-13	117	104	182	70	31	92	123	193	-8 (-10%)	+44 (-)	-25 (-21%)	+19 (+18%)	+11 (+6%)
医薬品	売上高	30	14	23	37	67	33	20	11	31	64	+3 (+10%)	+6 (+38%)	-12 (-47%)	-6 (-15%)	-3 (-4%)
	営業利益	0	0	4	4	4	5	4	-3	1	6	+5 (-)	+4 (-)	-7 (-)	-3 (-70%)	+2 (+68%)
卸売	売上高	337	178	183	361	698	364	222	187	409	773	+27	+44	+4	+48	+75
	営業利益	12	7	6	13	25	13	8	4	12	25	+1	+1	-2	-1	0
その他	売上高	94	68	76	144	238	104	61	78	139	243	+10	-7	+2	-5	+5
	営業利益	0	4	4	8	8	0	2	5	7	7	0	-2	+1	-1	-1
調整額	売上高	-266	-161	-158	-319	-585	-400	-241	-207	-448	-848	-134	-80	-49	-129	-263
	営業利益	-16	-12	-5	-17	-33	-19	-8	-9	-17	-36	-3	+4	-4	0	-3
合計	売上高	945	437	709	1,146	2,091	918	495	670	1,165	2,083	-27 (-3%)	+58 (+13%)	-39 (-6%)	+19 (+2%)	-8 (0%)
	営業利益	180	56	189	245	425	213	126	161	287	500	+33 (+19%)	+70 (+124%)	-28 (-15%)	+42 (+17%)	+75 (+18%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥種

40

40 ページが、セグメント別のそれぞれ 3Q、4Q の数字が入っております。

## セグメント別 2021年度通期 前回業績予想比

(億円)

		2021年度 業績予想 (2021年11月発表)					2021年度 業績予想 (2022年2月発表)					前回業績予想比
		上期 実績	3Q	4Q	下期	計	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	計	計
化学品	売上高	171	96	97	193	364	171	105	97	202	373	+9
	営業利益	12	10	7	17	29	12	13	7	20	32	+3
機能性材料	売上高	396	205	208	413	809	396	209	208	417	813	+4
	営業利益	132	66	65	131	263	132	76	65	141	273	+10
農業化学品	売上高	250	112	296	408	658	250	119	296	415	665	+7
	営業利益	70	20	92	112	182	70	31	92	123	193	+11
医薬品	売上高	33	19	11	30	63	33	20	11	31	64	+1
	営業利益	5	3	-3	0	5	5	4	-3	1	6	+1
卸売	売上高	364	200	187	387	751	364	222	187	409	773	+22
	営業利益	13	6	4	10	23	13	8	4	12	25	+2
その他	売上高	104	53	78	131	235	104	61	78	139	243	+8
	営業利益	0	1	5	6	6	0	2	5	7	7	+1
調整額	売上高	-400	-218	-207	-425	-825	-400	-241	-207	-448	-848	-23
	営業利益	-19	-12	-3	-15	-34	-19	-8	-9	-17	-36	-2
合計	売上高	918	467	670	1,137	2,055	918	495	670	1,165	2,083	+28
	営業利益	213	94	167	261	474	213	126	161	287	500	+26

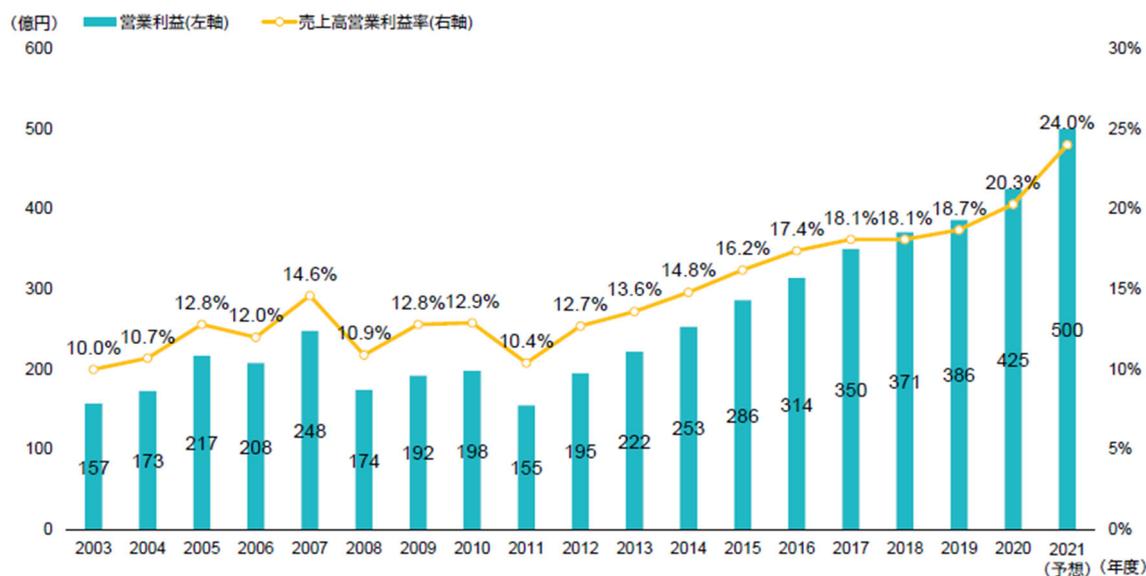
※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧

41 ページをご覧ください。

セグメントの利益の前回業績予想、11月と今回の2月の比較です。4Qのところを縦に見ていただきますと、各セグメントは変えてございません。変わっているのが下から3行目の調整額の営業利益で、マイナス3からマイナス9に変えたという数字でございます。

## 売上高営業利益率・EPSの推移

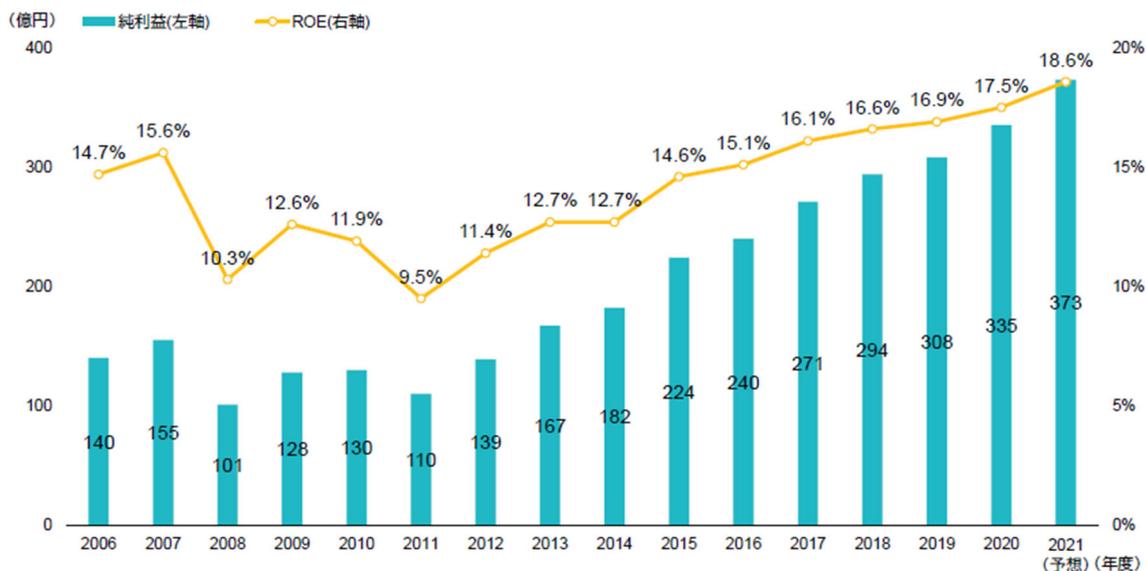
長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降18年連続10%以上)。  
2021年度予想は24.0%



42

## ROEの推移

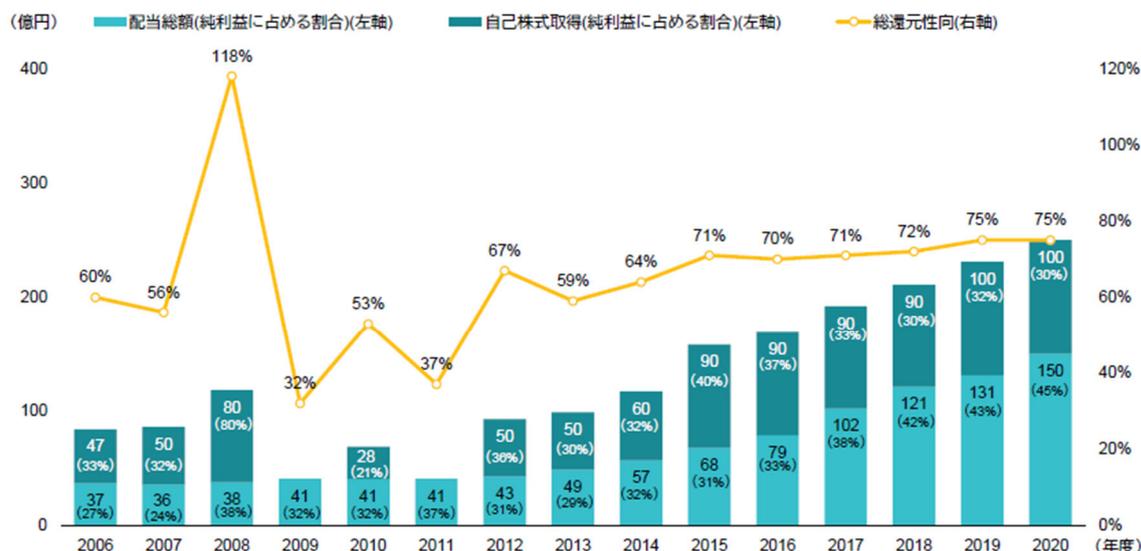
ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持。2016年度以降は14%以上維持を目標に掲げ、2016-2018年度達成。中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標。2021年度予想は18.6%



43

## 株主還元 総還元性向

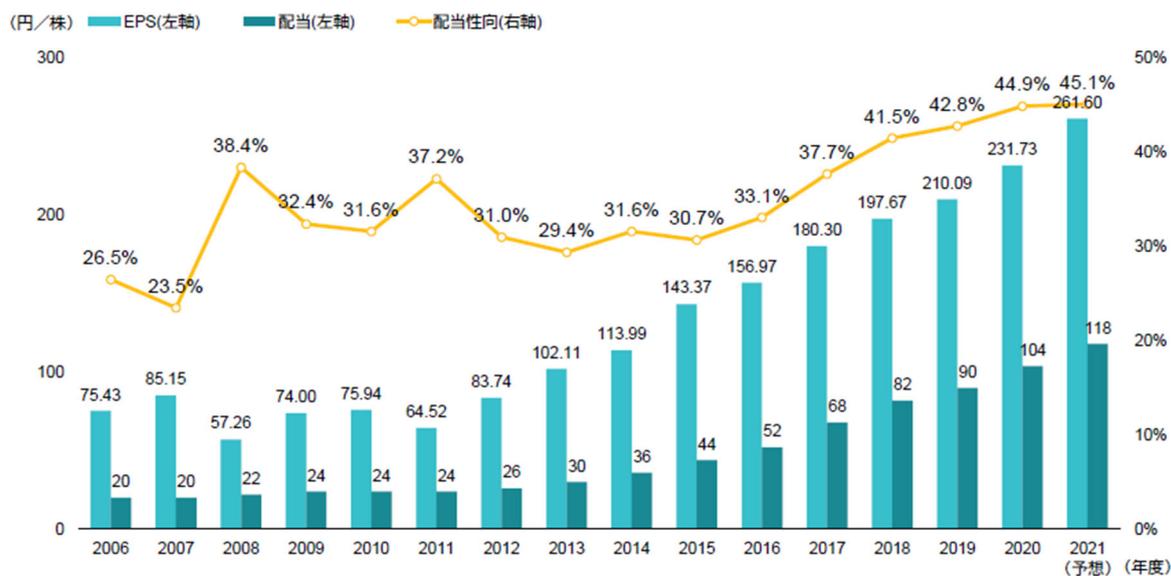
配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は60%-70%で推移。2016年度以降は70%維持を目標とし、2016-2018年度達成。中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標。2021年度も目標達成に向け進捗中



44

## 株主還元 配当性向

- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2018年度実績41.5%。中期経営計画(2019-2021年度)では2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標。2021年度予想は45.1%
- 2012年度以降2020年度まで9期連続増配



45

## 株主還元 自己株式取得

ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-20年度取得総額925億円、4,271万株(取得開始前発行済株式の22.8%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式取得によって株主還元を強化していく

### 2006-2020年度 自己株式取得実績

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
自己株式取得総数(千株) <sup>※1</sup>	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	42,715
取得価額総額(億円) <sup>※1</sup>	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	925
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	42,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	
期末自己株式数(千株) <sup>※2</sup>	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	
株主総還元性向(配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	

### 2018-2021年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021	
	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計	上期実績	2022年2月7日~4月28日 <sup>※3</sup>
自己株式取得総数(千株) <sup>※1</sup>	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	1,000(上限)
取得価額総額(億円) <sup>※1</sup>	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50(上限)
自己株式消却総数(千株)	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を除く ※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を含む  
 ※3 2022年2月4日発表 ※4 2009年度、2011年度は自己株式取得なし

### キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

| 46

## ESGへの取り組み

E (環境)	2021年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定</li> <li>中期経営計画Vista2021(2016-2021年度)目標：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度までに、2011年度比 20%削減 → 2019年度の段階で、2011年度比 27%削減を達成済</li> </ul> </li> <li>新長期目標：2030年度までに、2018年度比 30%削減</li> </ul>	(CO2換算、千トン)																													
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2011</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2030</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期経営計画 Vista2021</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>359</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>448</td> <td>363</td> <td>327</td> <td>318</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新長期目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>254</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2011	2018	2019	2020	2021	2030	中期経営計画 Vista2021	-	-	-	-	359	-	実績	448	363	327	318	-	-	新長期目標	-	-	-	-	-	254	
		年度	2011	2018	2019	2020	2021	2030																								
		中期経営計画 Vista2021	-	-	-	-	359	-																								
		実績	448	363	327	318	-	-																								
新長期目標	-	-	-	-	-	254																										
	大手総合化学4社平均(単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-	-																									
	2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定																														
S (社会)	2021年9月	「 <a href="#">統合レポート2021</a> 」を発行																														
	2022年6月(予定)	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)																														
	G (ガバナンス)	2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)																													
2019年6月		取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)																														
2021年6月		女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)																														
2021年12月		「 <a href="#">コーポレートガバナンス報告書</a> 」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)																														

| 48

## Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2021年11月  
4年連続で構成銘柄に選定



## S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2021年3月  
3年連続で構成銘柄に選定



## FTSE4Good Index Series・FTSE Blossom Japan Index

- 2021年7月 構成銘柄に2年連続選定



## MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2021年12月 構成銘柄に選定

### 2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

## CDP

- 2021年12月  
水セキュリティにおいて「Aリスト」  
に3年連続選定



## 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



## 健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2021年3月  
5年連続認定



## 東京証券取引所「企業価値向上表彰」

- 2020年1月  
表彰候補50社に2年連続選定

その後は飛んでいただきまして、49 ページまでまいります。

ESG 関連で、前回の決算説明会以降の変化でありますけども、まず左上の Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index、4 年連続で構成銘柄に選んでいただきました。

上から 3 番目の左側、CDP につきまして水セキュリティで A リストに 3 年連続で選んでいただきました。

右側のほうにいきまして上から 2 番目、MSCI の日本株女性活躍指数 WIN に 12 月に選定をしていただきました。

## 会計方針の変更

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

	2021予想(2022/2発表)						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	計
売上高の増減 <sup>※1</sup>	-35	-74	-109	-17	-82	-99	-208
営業利益の増減 <sup>※2</sup>	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計  
 ※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

### (1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度予想PLへの想定影響額	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高、売上原価がそれぞれ207億円減少、営業利益には影響せず</li> <li>■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除</li> </ul>

### (2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社 <sup>※</sup> 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社 <sup>※</sup> 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米國メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

### (3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上)</li> <li>■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向</li> </ul>
2021年度BSへの想定影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

| 51

最後、51 ページに会計方針の変更をまとめてございますので、ご参考までに見ていただければと思います。以上でございます。

## 事業環境に関するコメント（各事業担当者）

---

### <化学品>

全般的に3Q、4Qともに、原料価格の高騰、それから輸送費上昇、特に輸出の船舶の価格上昇がありました。それから船舶のブッキングがなかなか難しいということも足を引っ張られる要因になっています。

それを踏まえまして、3Q単独の前年同期比になりますけれども、前年に比べまして、メラミン・テピックの輸出価格の値上げや、全般的な数量増で、先ほど申し上げました原燃料価格、輸送費のアップを吸収しまして、増収・増益という形になりました。

3Q単独の業績予想比につきましても、メラミン・テピックの値上げ効果、数量の上ぶれ、こういったものが効きまして、売上高、利益ともに上ぶれとなっています。

4Qの単独の見込みの業績予想比、売上動向ですけれども、これにつきましては、業績予想に対して天然ガス、これも引き続き悪化傾向、船舶の高騰、なかなかブッキングができなくて、輸出がどんどん後ろへずれていくような状況になってはいますけれども、各製品とも販売は堅調で、メラミン、テピック、アドブルーなどが牽引して、売上高、営業利益ともに予算達成を見込んでおります。

### <機能性材料 ディ스플레이材料>

まず3Q単独の例年同期比です。ラビングIPSでは、一部顧客での稼働調整、光IPSへの技術転換進行による減収の一方で、VAの顧客稼働好調、また光IPSでは、ノートPCを中心とした需要増に加えて、ラビングIPS等からの転換進行により、全体では増収・増益となりました。

また3Q単独の業績予想比ですが、ラビングIPSの一部顧客での稼働調整による減収に対して、VAの顧客高稼働、光IPSのIT向け堅調により、全体では増収・増益になっております。

最後に、4Q単独見込みの業績予想比ですが、ラビングIPSの3Qの稼働調整からの回復傾向、また、VA・光IPSの好調持続によって、各用途とも予想をクリアする見込みでございます。以上です。

## <機能性材料 半導体材料>

まず半導体の3Qの前年同期比ですけれども、複数客で増産が進みまして、販売増となりました。寄与が大きかった順に申し上げますと、国別では、中国、韓国、台湾の順。材料別ではArF、KrF、多層材、EUVの順となります。

続きまして、3Qの業績予想比ですが、主に中国顧客で販売上ぶれとなりました。これは上期の供給不足分の解消を3Qで行ったというところと、一部4Q分が3Qへ前倒し出荷された影響となります。半導体全体でも若干上ぶれとなりました。

4Q見込みの業績予想比ですが、各顧客での稼働使用量はほぼ予想と変更はございませんが、先ほど申し上げました中国向けの4Q分が3Qへ前倒し出荷された影響で、若干販売減を見込んでおります。

## <機能性材料 無機コロイド>

3Q単独の前年同期比については、増収・増益となりました。スノーテックスは増収となりました。昨年度は、コロナ禍の影響を大きく受けましたが、今年度は引き続き、自動車、半導体関連が堅調に推移しております。

オルガノゾル・モノマーゾルにつきましても、増収となりました。こちらもコロナ禍からの回復、および電子材料関係の好調によるものです。オイル&ガス材料につきましても、減収となりました。昨年度は、大型案件を受注化したことが理由になります。

続いて、3Q単独の業績予想比になります。売上高、営業利益とも上ぶれとなりました。スノーテックスは、売上高は下ぶれとなりました。需要は堅調でありますけれども、定修の影響もあり、在庫が低下して出荷調整を行ったことが影響しております。オルガノゾル・モノマーゾルは、売上高は上ぶれとなりました。電子材料関係の高騰によるものです。オイル&ガス材料は、売上高は下ぶれとなりました。

続いて、4Q単独見込みの業績予想比になります。売上高の業績は、目標達成を予想しております。スノーテックスやオルガノゾル・モノマーゾルおよびオイル&ガス材料、いずれも目標達成を予想しております。

懸念材料としまして、日本からアメリカ工場にスノーテックスの原料を輸送しておりますけれども、船の確保が十分でないということが挙げられます。長期化すれば、今後の供給が懸念されます。以上となります。

## <農業化学品>

最初に、3Q 単独の前年同期比についてご説明いたします。概要といたしましては、主要品目全般におきまして、前年同期を上回る実績となりました。

品目別に見てまいりますと、国内のグレースシアに関しましては、流通在庫の整理が進んだことに加えまして、秋が比較的高温であったということで需要が進んでおります。また海外向けのグレースシアも初のインド向けの出荷がございました。

ラウンドアップにつきましては、12 月からの値上げを控えまして仮需要が発生しております。

海外向けのクインタックに関しましては、米国向けの出荷が 4Q から 3Q へ前倒しとなったことによりまして、前年同期を大きく上回っております。

動物薬に関しましては、原薬についてはほぼ前年同期並みでございましたが、ロイヤリティにつきましては、新会計基準の適用により前年を大きく上回る結果となりました。

続きまして、3Q 単独の業績予想比についてです。3Q におけます業績予想比では、全体を通じまして上ぶれとなってございます。タルガにつきましては、インド向けの出荷が 3Q から 4Q へずれたことによる下ぶれ。ライメイに関しましては、物流事情等による製造遅れによりまして、同じく海外向けで下ぶれとなってございますが、先ほど述べました他の主要品目の伸長でカバーをいたしまして、全体としては上ぶれということになっております。

最後、4Q の単独見通しでございます。4Q の見込みに関しましては、今のところ業績予想どおりと見込んでございます。アルテアにつきましては、若干の流通在庫の影響あるいは米価の低迷等の影響がございましたが、本年本格販売を開始いたします新規剤の伸長を予測しておりまして、業績予想並みと見込んでございます。

国内のグレースシアに関しましては、流通在庫の消化が進展いたしまして、業績予想並みではございますが、海外グレースシアにおきまして、韓国向けの在庫の影響が残ってございまして下ぶれ。グレースシア全体としましても下ぶれの見通しでございます。

ラウンドアップに関しましては、先ほど申し上げました値上げによる仮需要、その反動によりまして、若干の下ぶれを見込んでございます。海外におきましては、クインタックの前倒しの影響がある一方で、タルガに関して、インド向けの出荷に関しまして、3Q からずれた販売がこの 4Q に実現する見通しでございまして、またインドにおきますタルガの混合剤の上市、これによる拡販が期待できることにより、上ぶれを予測してございます。

最後に動物薬に関しましては、原薬の販売が若干の下ぶれ。ロイヤリティに関しましては、若干の上ぶれを予測しておりまして、動物薬全体として若干の下ぶれという見通しでございます。以上でございます。

### <医薬品>

まず3Q単独、前年同期比ですが、創薬はリバロが上期に前倒し出荷がありましてマイナス。ファインテックは、エルデカルシトールの出荷が2Qと3Qに集中しておりましてプラス。医薬全体ではプラスとなりました。

次に、3Q単独の業績予想比です。創薬はリバロ下ぶれですが、固定費の下ぶれもあり、利益は予想どおり。ファインテックは売上上ぶれで、利益は上ぶれ。医薬全体で利益上ぶれです。

最後に4Q単独の業績予想比です。創薬はリバロが3Qからの後ろ倒し。ファインテックは、マキサカルシトールが上ぶれて、医薬全体で予算達成の見込みです。以上です。

## 質疑応答

---

### <質問者 1>

**Q:** サンエバーの光 IPS について教えてください。今年度は市場自体も好調で、ラビングからのシフトもあるということですが、来年度もまだ伸びる余地はあるのでしょうか。

**A:** 光 IPS は、来年度も引き続き、IT 向けの光 IPS へのシフトということが進行する中で需要が増加すると見ております。そういった背景としましては、各顧客でさらに光 IPS の増産をすべく増強も計画されておまして、来年度それが実行されるという中での増加を見込んでおります。

**Q:** ありがとうございます。次に農業化学品について、グレースシア等が上期までかなり下ぶれて、3Q は上ぶれということですが、これは上期時点でかなり下期の見方を下げたというわけではなくて復活してきたということでしょうか。

あと農薬全般、御社全体で棚卸資産が結構多いようにも見えるのですが、これは農薬が中心で 4Q に捌けるので大丈夫なのか、この辺についてお願いできますでしょうか。

**A:** グレースシアに関しましては、在庫の影響がかなりあるという見込みの中で走っていましたが、3Q では、秋の高温で、かなり害虫の発生が増えたということで、需要が進んで在庫の消化がわれわれの予測より進んだという結果でございます。

あともう一つ、棚卸資産に関しましては、今おっしゃられたように需要期がこれからになります。4Q でほぼ捌けるという想定で走っております。

**Q:** 棚卸資産が増えて、農薬以外で利益が思ったよりも 3Q 出たというようなセグメントは、特にないということでしょうか。

**A:** そういったことは特にないです。

### <質問者 2>

**Q:** まず、機能性材料の半導体についてお伺いしたいです。半導体材料の 3Q から 4Q の状況というのは、どんな感じでいくのか教えていただけないでしょうか。

**A:** 3Q から 4Q だと、ほぼ状況は横ばいだと見ています。ただし、先ほどもご説明のとおり、中国向けで 3Q に前倒し出荷があった分だけ若干のマイナスといった形で見込んでおります。

**Q**：中国は前倒しがあったということで、これは製品としてはどちらになるでしょうか。

**A**：満遍なく、という形になります。春節の影響等がございますので。

**Q**：はい。分かりました。それを抜かせば大体 3Q から 4Q というのは、KrF、ArF、その他はおおむね横ばいでいく感じで、今のところ半導体材料で調整が入るという感じはないですか。

**A**：はい、そのように見込んでいます。調整等が入ることは特に見込んでいません。

**Q**：はい。分かりました。あともう一つ、フルララネルについて教えてください。11 月発表時点では、年間で前年同期比 3%減収ということでしたが、今回これに対する見方を変えていらっしゃるのでしょうか。

先ほどのご説明ですと、4Q は、若干計画を下ぶれそうだという話があったかと思えます。これは多分 4Q 単独、3 か月だけのことだけだと思うので、通期で見た場合、この元々の 3%減収というのは変えられているのかということ。

**A**：先ほど若干下ぶれそうだとしたのは、4Q 単独、3 か月のところですね。4Q だけを見てそういう話をしましたが、年間ではやや上ぶれてきているというところだと思います。

**Q**：ありがとうございます。あと、フルララネルの在庫調整による減収トレンドは、2022 年度がボトムになりそうだという点ですが、ここをもう少し細かく、例えば 2022 年度の前半である程度底打っていけるのか、それとも後半まで調整が続くのか、その辺り教えてください。

**A**：2022 年度のどこで底を打つかというのは、そこまで今われわれは細かく見ていないので、なんとも言えません。本決算を発表する 5 月のタイミングでは、もう少し明らかになっていると思います。

### <質問者 3>

**Q**：まず 1 問目は、p25 の機能性材料についてです。3Q での計画比で、売上 4 億円の上ぶれに対して、営業利益の上ぶれが 10 億円と非常に大きいのですが、この理由を教えてくださいませんか。

**A**：売上以上に利益の上ぶれが大きいのは、固定費で 4 億円プラスがあるのと、それからディスプレイの光 IPS の上ぶれが大きかったということが要因になっています。

**Q**：分かりました。次に、固定費に関してですが、3Q で機能性材料が 4 億円利益サイドに上ぶれて、農業化学でも 1 億円は上ぶれたかと思えます。もともと下期計画では、感染収束による旅費交

通費の増加などを織り込まれていたかと思しますので、4Qも今のような状況であれば、固定費の消化は下回る可能性が高そうなのか。もしくは3Qから4Qにかけて、一部費用の発生が後ろ倒しになって、4Qの固定費はさほど楽観すべきではないのか。固定費の状況について、もう少し教えていただけますでしょうか。

**A**：旅費交通費は元々そんなに多く予算はとっていないので、そこで4Qで大きくセービングがあるというふうには今見ていません。3Qの固定費の未消化は、試験費の遅れという点もあります。

**Q**：分かりました。その試験費は3Qから4Qに後ろ倒しになって、4Qで消化されそうなのでしょうか。後ろ倒しになっているような費用科目はほとんどないですか。

**A**：試験費についてはそういう傾向があるところですね。ほかの費用科目ではないです。

#### <質問者 4>

**Q**：光IPSについてお伺いします。中国の中型のパネル向けで光配向を導入する動きが、以前にも増して活発化しているかと思えます。光IPSは、リニアに採用比率が高まっていくようなイメージなのか、あるいはお客さんの設備の転用の状況を見ておりますと、22年度は大きく光率は上がりそうだとか、そのあたりの時間軸についてもご解説いただけますでしょうか。

**A**：光IPSの浸透率の拡大につきましては、年次でリニアな増加ということが見込まれます。

**Q**：分かりました。ありがとうございます。

2点目は、小野田工場の農薬の能力増強について、一部業界誌にも出ていたのですが、今回能力増強に至った経緯についてご解説いただけますでしょうか。

**A**：一つ目の目的としましては、現状の小野田工場の生産キャパシティが、かなりの現製品の製造で、かなり上のところまで来てしまっていること。もう一つは、今後の新規剤、特に除草剤2剤が出てくる予定ですが、それに対応するプラント増強ということでございます。需要の高まりへの対応といたしましては、小野田工場のみならず、インドで建設中の新工場も含めて対応していくということでございます。

#### <質問者 5>

**Q**：まず農業化学品のフルララネルについて。先ほどのご解説を伺うと、年間で見たとときに、フルララネルも上ぶれそうだとしたことなのですか。

**A**：そうですね。

**Q**：これは、先ほどの22年度がボトムで、その後は上がっていくという見通しは変えていないとおっしゃいながらも、上ぶれている分ぐらいは元のシナリオよりは在庫の消化が進んでいるとおけばいいのですね。

**A**：そうですね。もともとの22年度のボトムの状況よりは、在庫の状況は改善しているというところですね。

**Q**：なるほど、分かりました。あと農薬のところ、次期の2022年度を見るときに多分一番不透明なファクターは、フルララネル以外だと、グレースシアではないかと思っています。

グレースシアはここ2、3年を見ていると、当初予想が全く当たっていないのですけれど、ここから先は、当たるようになってくるのですか。

**A**：グレースシアの考え方ですけれども、確かに予想が当たっていないのも事実でございます。ただ先ほども言いましたように、在庫の整理がかなり、私どもの想定よりクリアに進んでおりますので、まずはスタートラインにつけたというのが現状でございます。

グレースシア、殺虫剤の使用量に関しましては、特に気候とか害虫の発生次第で、全く予測がつかないぐらい倍になったり半分になったりの変動幅がございますので、今在庫が割とクリアになったスタートに立って、通常の発生であればわれわれの業績見込みどおりになると。ただ少なかったりすると、確かに下ぶれする。害虫発生が多かったりしますと、かなり上ぶれると、そんな状況でございます。

**Q**：分かりました。ありがとうございます。最後に、ファインテックは、今年度もとてもいい数字なのですが、来年度以降もこのペースで成長するのでしょうか。

**A**：ファインテックですけれども、来年度も大体同じぐらい出るのではないかと考えているので、需要環境としては大きく変化していないと考えております。

**Q**：同じぐらい出るというのは、絶対値が同じ意味という意味ですね。伸び率が同じではなくて。

**A**：そうですね。伸び率に関しても来期は横ばいぐらいかなと予測しております。

以上